

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 仙台市サンホーム			
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日		～	令和8年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	令和7年12月8日		～	令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	17名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【こども支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の療育での行動観察や、個別活動におけるアセスメントにより、一人ひとりのこどもの発達段階や特性に合った個別支援に取り組んでいる。 小集団活動では、個々の強味(好きなこと、得意なこと等)を活かしながら、特性や苦手さに配慮した活動の工夫を行い、達成感や満足感を感じられる活動設定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもの発達段階や特性を適切に理解するために、外部講師からの助言をもとに、アセスメントと具体的な取り組みの工夫を行っている。 個々の育ちを確認するとともに、クラスとしてのスモールステップをチームで話し合い、個別に提供する内容と小集団として提供する内容を検討しながら活動計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師からの助言や外・内部の研修にて、こどもの発達と特性理解の学びを深めるとともに、個々のアセスメントを適切に行い、具体的な取り組みに反映させていく。 こどもにとってわかりやすい環境を整えていくこと(構造化)や見通しの伝え方の工夫(視覚支援)等を強化していく。
2	<p>【保護者支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス担任を中心とした日々の療育場面でのこどもの姿を丁寧に共有を始め、生活動作やことばの育ち、家庭での過ごし方、次の進路先などについて、より専門的な視点で助言ができる職員を配置し、タイムリーに保護者相談を受けられる体制を整えている。 定期的な保護者勉強会にて、様々なテーマを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育時間の中または面談にて、ご家庭での困り感等ごまめにお話しを聞くとともに、適切なかわり方や配慮が必要なことについて具体的に共有するようにしている。また、こどもの様子や保護者のニーズを元に専門職スタッフが個別に関わるとともに、保護者から相談の申し入れがあった際には、できるだけ速やかに相談の機会を設定している。 全員が勉強会に参加できるよう登園日の調整をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の想いを傾聴することや、適切な相談援助等について学び、全職員のスキルアップを図っていく。また、個別的な専門的支援・相談の体制についても改めて保護者へ周知していく。 勉強会の内容を精査し、できるだけ幅広い保護者ニーズに応えていく。
3	<p>【地域支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来所型地域支援として、療育見学日や保護者勉強会・地域参加枠等の設定をし、地域の保護者や支援者と一緒に学ぶ機会を設けている。 隣接された児童館、近隣の保育所(園)、幼稚園、こども園等を訪問し、課題の共有と取り組みへの助言(アウトリーチ支援)を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関と積極的に繋がれるよう、卒園児の移行支援を丁寧に行うとともに、自立支援協議会や泉区子育てネットワーク会議に参加し、地域課題を把握するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関との共催企画(勉強会やイベント等)を積極的に行い、地域で気軽に相談できる場所として周知していく。 引き続き、地域の関係機関との連携を強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 活動部屋が限られていること、スペースに制限があることで、親子通園を軸とした際に狭く感じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1部屋(1クラス)10人定員ではあるものの、こども、保護者、スタッフが全員入ることで、お互いの距離感が近く感じられると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> パーティションなどを活用しながら空間を仕切り、親子が安心して過ごせる環境作りを配慮していく。また、クラス編成を考える際、可能な限り1部屋あたりの人数を調整する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域で他のこどもと関わる機会の設定について、近隣の保育園との交流保育は企画しているものの、頻度が少ないため、十分な交流には至っていない現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入園児はセンターに慣れるまではできるだけ園内で過ごすようにしていることや、発達段階や特性から、交流をゆっくり進めるようにしている。また、行事や気候によっても、交流の機会を設定し直すことがあるため、結果的に頻度が少なくなっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、近隣保育園との交流は企画していく。クラスごとに年間計画をたて、より積極的な交流保育ができるようにすすめる。
3			